熊日創立75周年記念

若冲と京（みやこ）の美術

細見コレクションの精華

京都市・岡崎に位置する細見美術館は、大阪の実業家・故細見良氏にはじまる細見家三代のコレクションをもとに、平成十年（一九九八）に開館しました。収蔵作品は、仏教・神道美術から近世・近代の絵画まで、日本美術の各分野・時代を網羅する優品の数々からなります。中でも伊藤若冲の作品は、質量ともに内外屈指のコレクションとして広く知られています。本展覧会では、細見コレクションの選りすぐりの名品を、四つのテーマに分けて、約九十点を展示します。

都の美意識Ⅰ ―王朝のみやび―

貴族文化の中で生み出された和歌や物語。それらは、美しい料紙に記され、また絵画や工芸の意匠として広く受け継がれました。

《定家詠月次花鳥毎絵重硯箱》江戸時代前期（17世紀）

俵屋宗達《歌仙絵色紙「藤原仲文」》江戸時代前期（17世紀）

【重要文化財】《山王霊験記絵巻》室町時代（15世紀）（会期中巻き替え）

《撫子図屏風》江戸時代前期（17世紀）

岩佐又兵衛《源氏物語図屏風「総角」》江戸時代前期（17世紀）

都に遊ぶ ―名所遊楽と祭礼の世界―

京の都における、長い歴史を持つ祭礼や、名所への行楽を楽しむ人々。その情景を生き生きと描いた絵画が多数制作されました。

「椋政」印《北野社頭図屏風》江戸時代前期（17世紀）

《東山名所図屏風》桃山時代（17世紀）

小澤華嶽《ちょうちょう踊り図屏風》江戸時代後期（19世紀）

都の美意識Ⅱ ―茶の湯の心―

鎌倉時代に禅宗とともに伝えられた茶の湯は、室町・桃山時代を経て、さまざまなやきものを生み出しました。茶会で用いられた書跡などとともに紹介します。

【重要文化財】《芦屋霰地楓鹿図真形釜》室町時代（15世紀）

《志野茶碗　銘「弁慶」》桃山時代（16世紀）

若冲と都の絵師 ―華ひらく個性―

江戸時代の京都は、俵屋宗達、円山応挙、池大雅ら、多数の個性的な絵師を生み出しました。なかでも伊藤若冲は、きわめて独創的な画風で、人々を魅了しました。

伊藤若冲《糸瓜群虫図》
江戸時代中期（18世紀）
（後期展示）

伊藤若冲《花鳥図押絵貼屏風》江戸時代中期（18世紀）

伊藤若冲《鼠婚礼図》江戸時代中期（18世紀）

伊藤若冲《雪中雄鶏図》
江戸時代中期（18世紀）（前期展示）

「伊年」印《四季草花図屏風》江戸時代前期（17世紀）

Jakuchu & Miyako